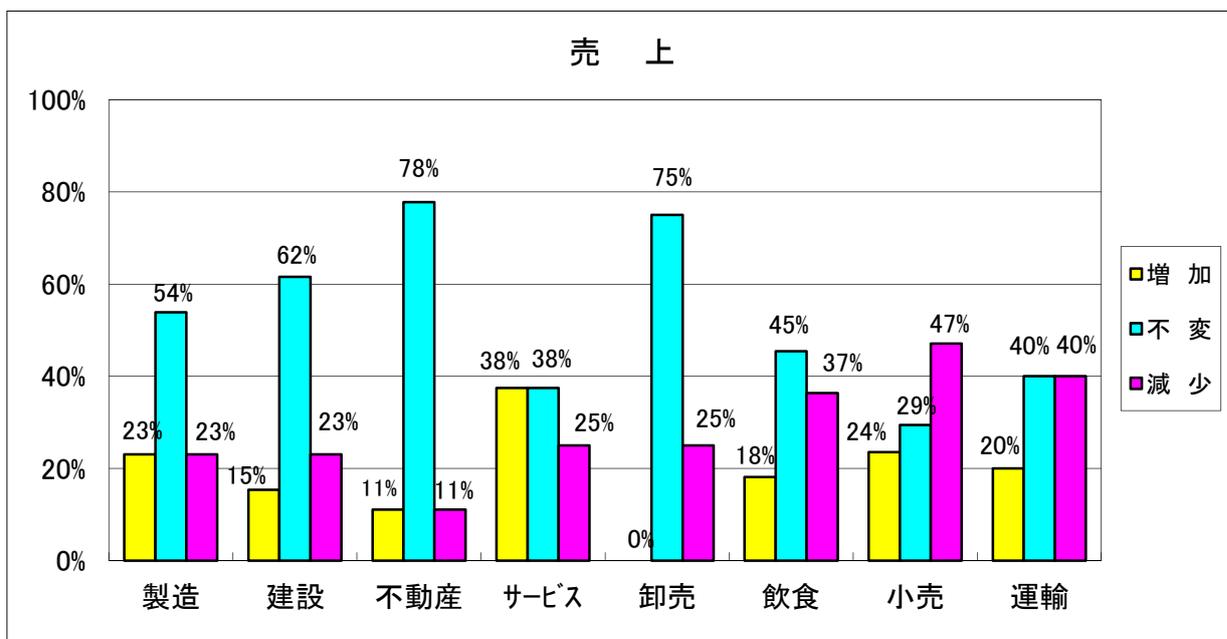


調査1 平成31年1月～令和元年6月の水準が、昨年同時期と比べてどのような推移をしているかを①売上 ②採算 ③仕入単価 ④従業員 ⑤業界の景気動向 ⑥資金繰り ⑦金融機関の融資状況の7項目について調査した。各項目について、業種別で集計したところ次のとおりとなった。なお、⑤業界の景気動向については過去の調査結果と平成31年上期の見通しについて比較表示してある。

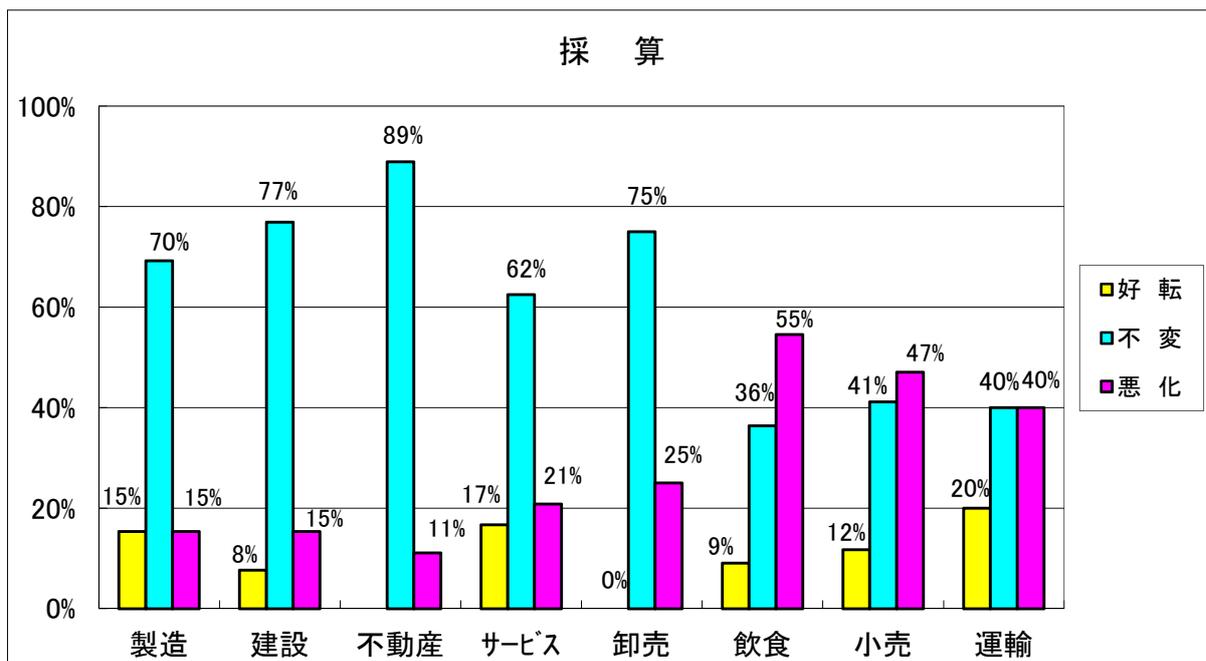
①売上について

全体的でみると昨年より「増加」が23%（前回30%）、「減少」は30%（前回39%）と、前回調査に比べると売上増加・減少ともに減っていて、半数近くは不変であった。その中で、売上「増加」が見られたのがサービス業（38%）であった。一方、「減少」が顕著なのが小売業（47%）であった。



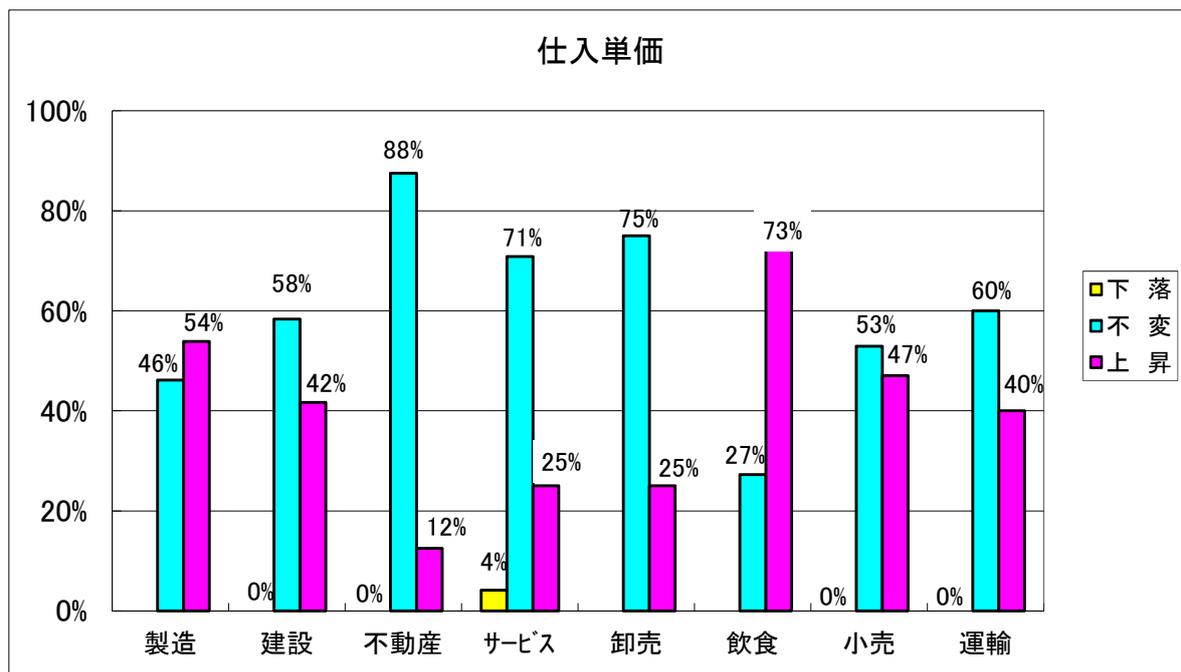
②採算について

全体でみると、「好転」11%（前回17%）、「不変」61%（前回51%）、「悪化」28%（前回32%）であった。業種では飲食業（55%）、小売業（47%）が「悪化」し、厳しい状況である。



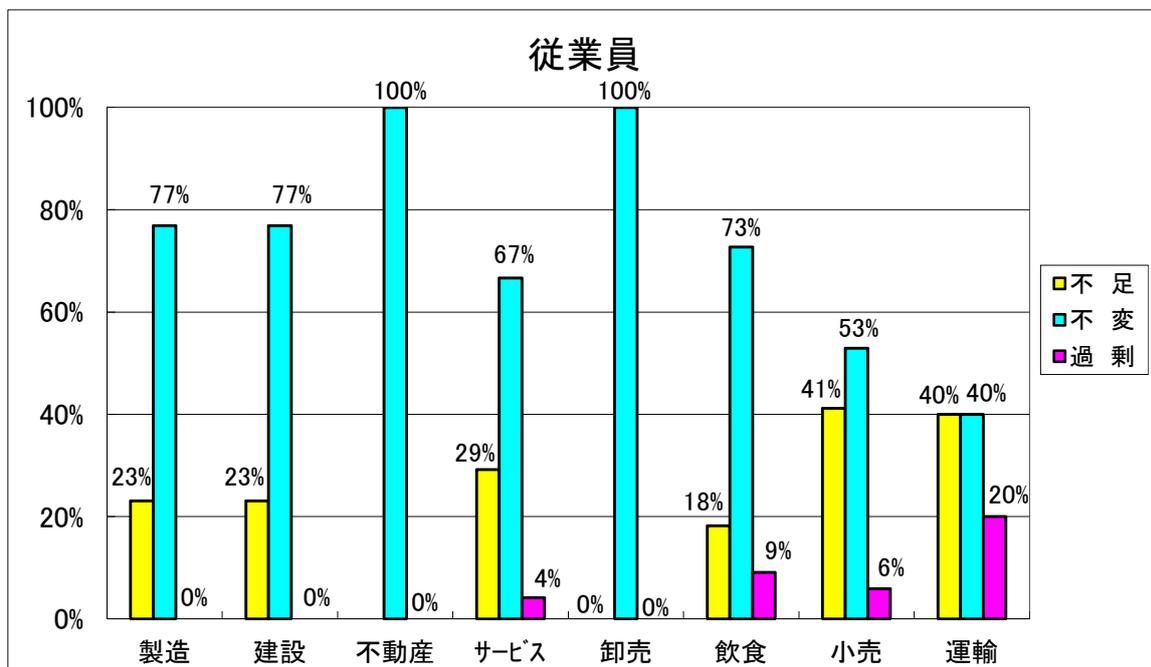
③仕入単価について

全体的には「不変」が59%「上昇」が40%であった。仕入単価の「上昇」顕著なのが、飲食業73%（前回71%）、製造業54%（前回42%）であった。

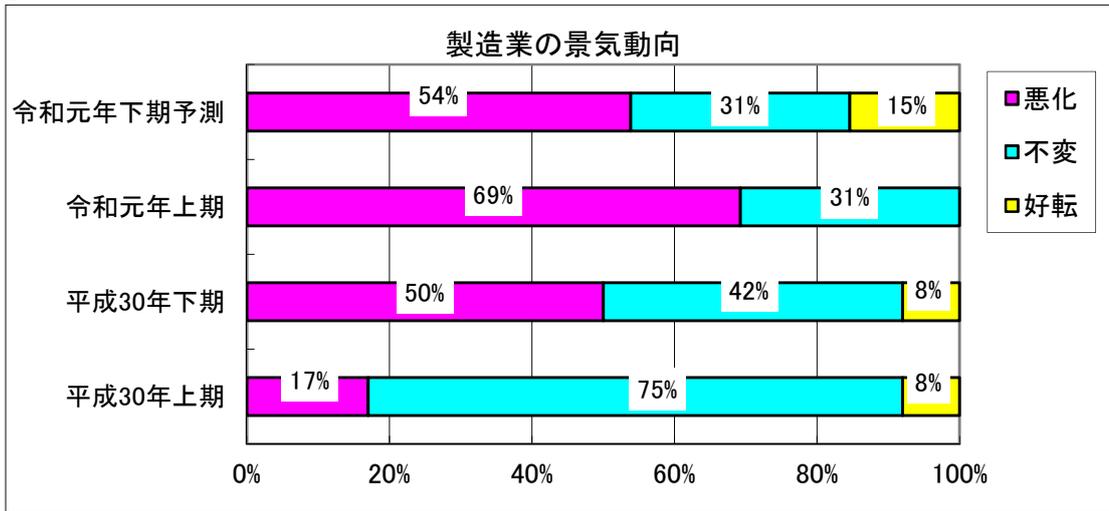


④従業員について

「不足」が顕著なのが、小売業41%（前回24%）運輸業40%（前回60%）であった。前回調査と比べると運輸業は変わらず不足の状況が続き、今回、小売業が不足との回答が多かった。

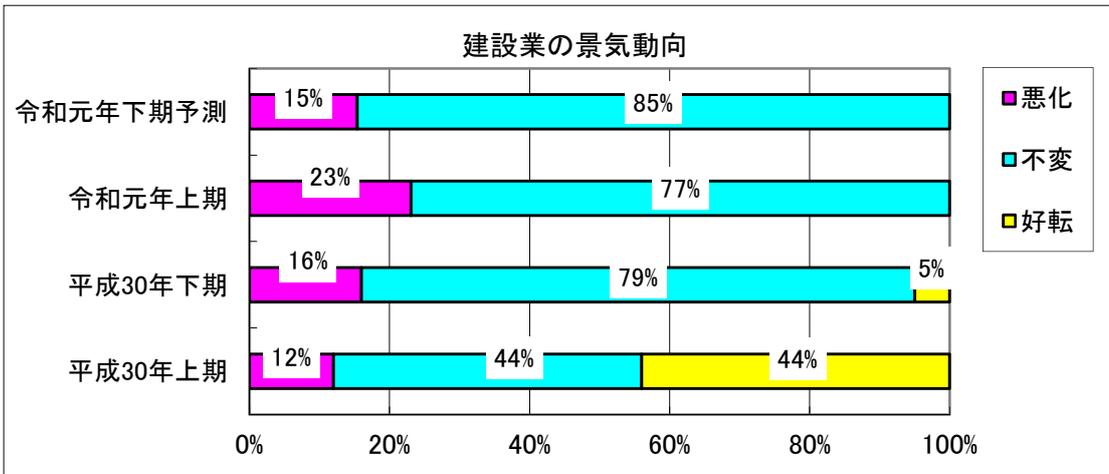


⑤業界の景気動向について



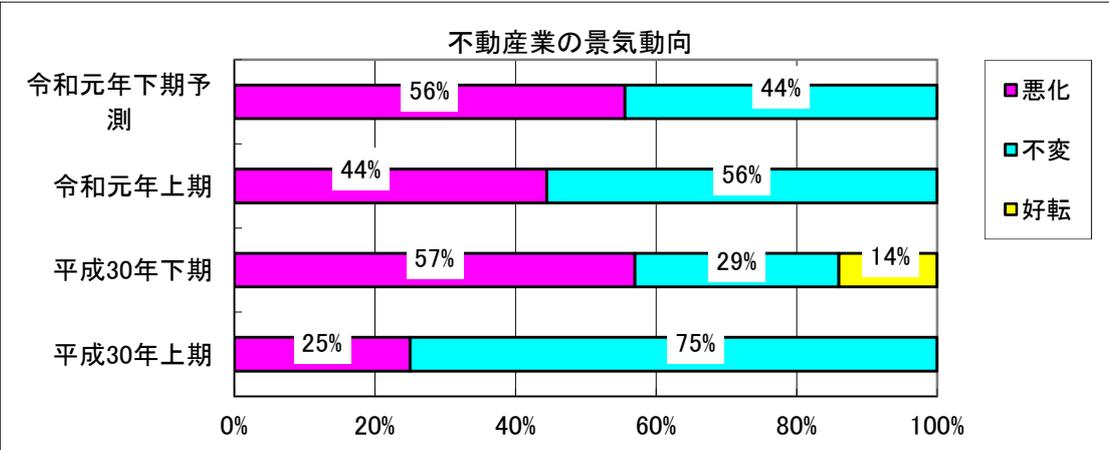
■製造業

令和元年上期では、「好転」が無く、「悪化」が69%と急激に悪化傾向がなっている。日中貿易摩擦の影響とも考えられる。令和元年下期の見通しは「好転」が15%、「不変」が31%で「悪化」54%との厳しい見通しである。



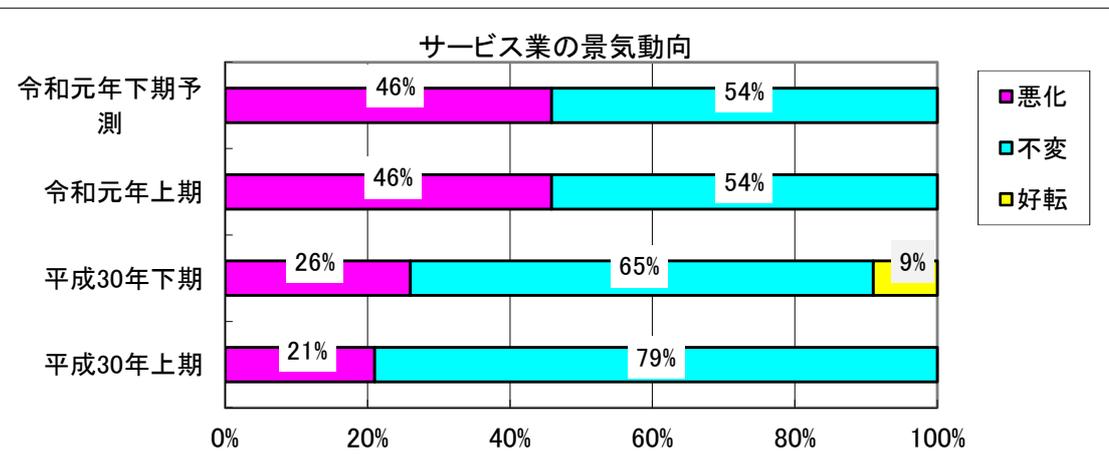
■建設業

令和元年上期は、「好転」が無く、「不変」が77%で「悪化」が23%であった。令和元年下期では「好転」は無く、「悪化」は15%との見通しでありあまりよくない状況である。



■不動産業

令和元年上期は、「好転」は無く、「悪化」が44%と厳しい状況である。令和元年下期も「好転」の見通しがなく、「悪化」が56%との見通しで厳しい状況である。

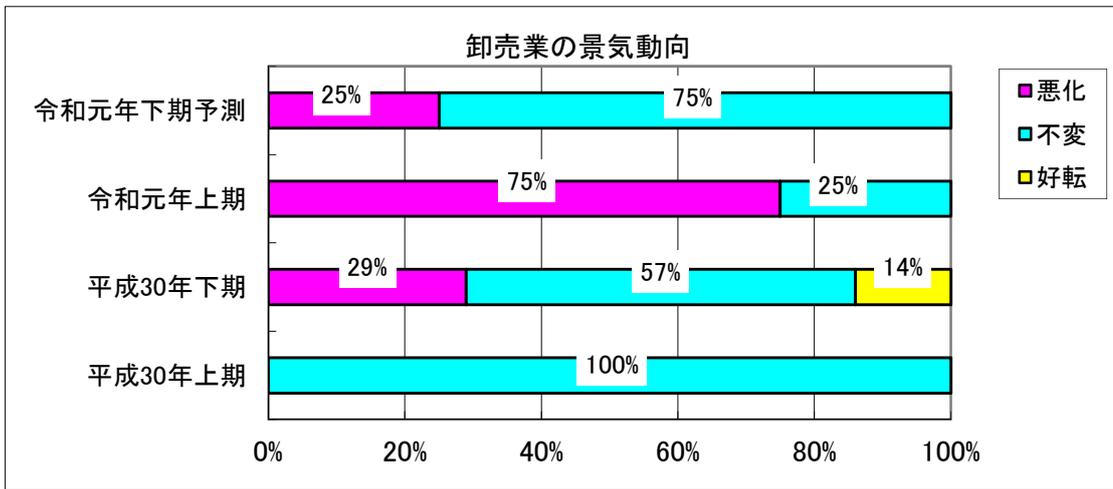


■サービス業

令和元年上期では、「好転」が無く、「悪化」が46%で厳しい状況であった。令和元年下期は「好転」の見通しが無く「悪化」が46%と依然として厳しい状況である。

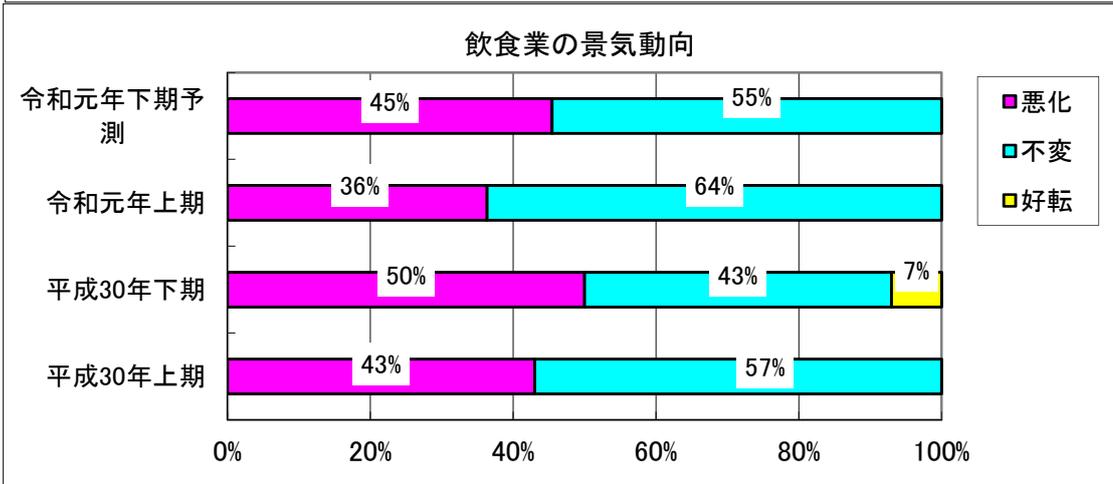
■卸売業

令和元年上期は「好転」が無く、「悪化」が75%、「不変」が25%と急激に悪くなっている。令和元年下期では、「悪化」が25%、「不変」が75%と依然として厳しい見通しとなっている。



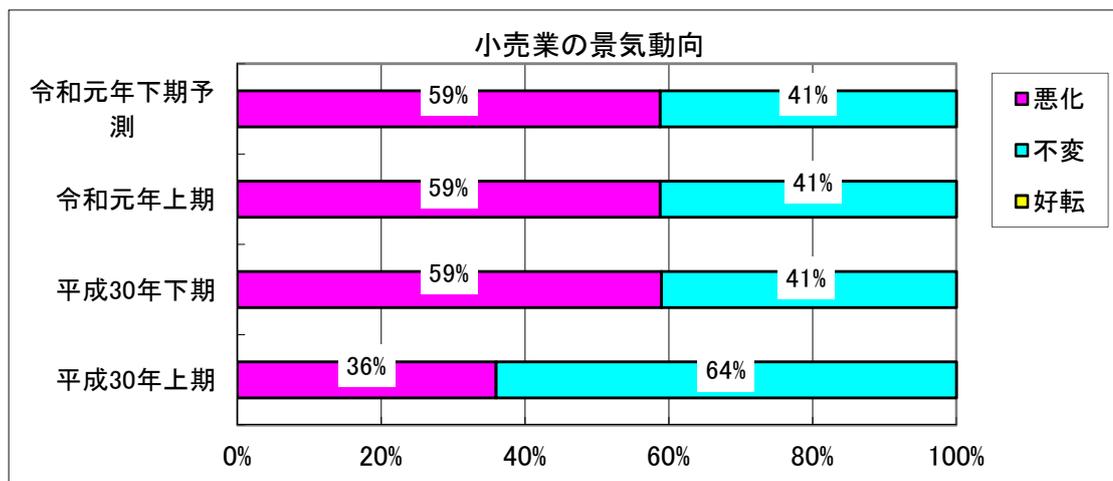
■飲食業

令和元年上期では「好転」は無く、「悪化」が36%、「不変」が64%と厳しい状況である。令和元年下期も「好転」は無く、悪化が45%と増え、厳しい見通しとなっている。



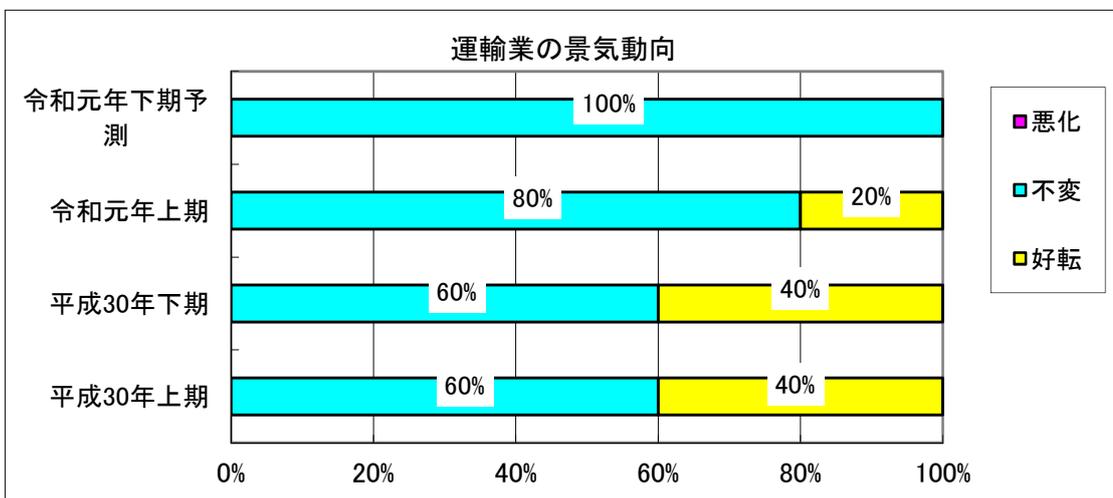
■小売業

令和元年上期は、「好転」がなく「悪化」が59%と悪化傾向が強い。令和元年下期の見通しは「好転」の見通しが無く、「悪化」が59%とかわらず厳しい見通しとなっている。



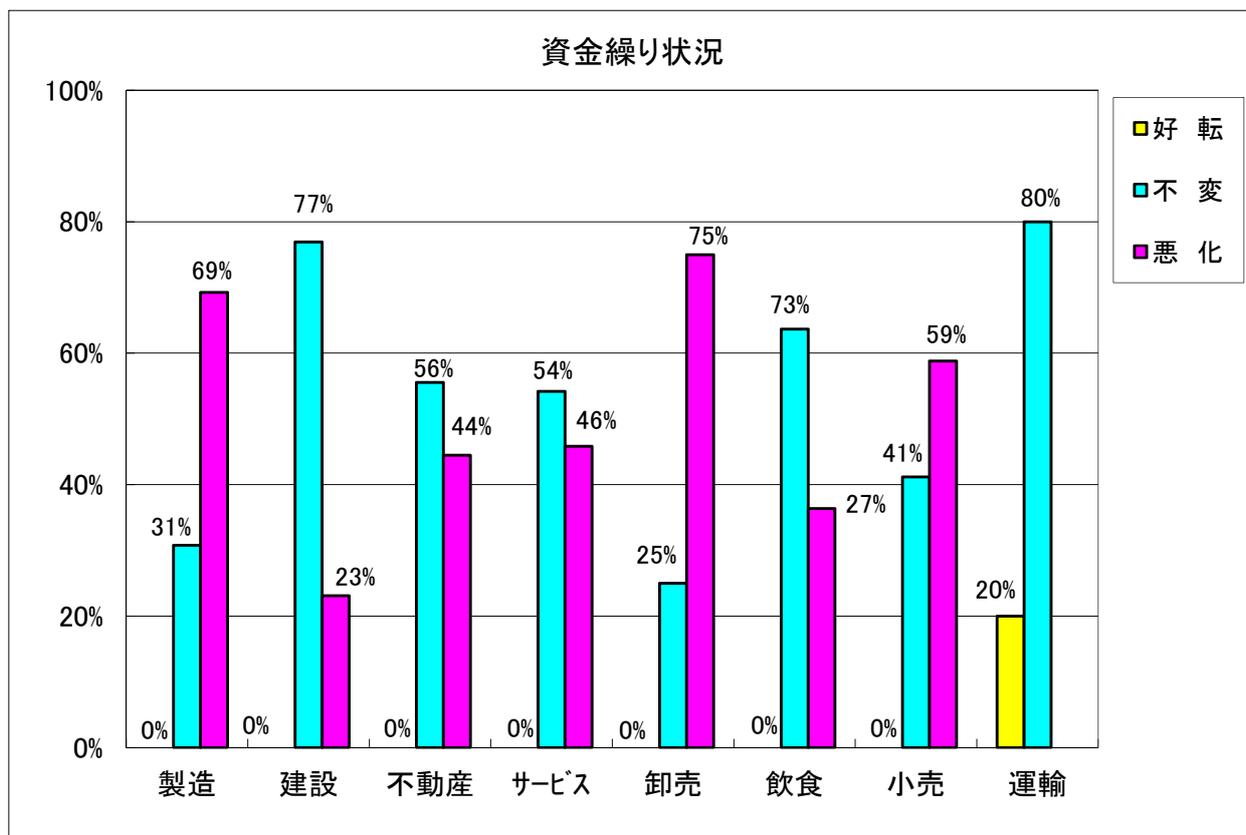
■運輸業

令和元年上期は、「好転」20%「不変」が80%と昨年の下期と比べると景気の減速感がみえる。令和元年下期も「不変」が100%の見通しであった。



⑥資金繰りについて

全体でみると「不変」が84%（前回78%）、「悪化」が14%（前回16%）、「好転」が2%（前回6%）と回答している。前回調査と大きな変化は見られない。業種でみると卸売業・製造業・小売業に悪化傾向が強くみられる。



⑦金融機関の融資状況について

全体的にみると「不変」が56%（前回49%）、「融資無し」が30%（前回28%）、「厳しい」が7%（前回5%）、「緩やか」が7%（前回18%）であった。業種でみると、卸売業で半数の企業が厳しいと回答している。

